Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●ワールドオールスタージョッキーズは武豊騎手が優勝

８月27日(土)と28日(日)の２回札幌５日・６日に開催された「2022ワールドオールスタージョッキーズ」では、武豊騎手(栗東・フリー)が、１着・３着・除外・２着という騎乗成績で計71点を獲得、1992年の第６回ワールドスーパージョッキーズシリーズ以来30年ぶり２度目となる優勝を果たしました。なおチーム対抗戦では、ＪＲＡ選抜が284点、ＷＡＳ選抜(外国騎手・地方競馬所属騎手)が174点となり、ＪＲＡ選抜が優勝しています。

●石神深一騎手が障害重賞全場制覇と障害重賞完全制覇を達成

８月27日(土)の４回小倉５日・第８レースとして行われた小倉サマージャンプ(Ｊ・ＧⅢ)では、石神深一騎手(美浦・フリー)騎乗のアサクサゲンキが１着となり、石神騎手は障害重賞全場(６競馬場)制覇を達成しました。これは新潟と小倉で障害重賞が実施されるようになった1999年以降では、高田潤騎手、森一馬騎手に次いで３人目のこと。この記録には通常障害重賞が実施されていない中京は含めませんが、石神騎手は開催場の変更によって中京で実施された障害重賞を勝利しているため「７場障害重賞制覇」となります。またこの勝利で同騎手はＪＲＡで現在実施されている障害重賞の完全制覇も達成。これは史上初の記録となります。

●ゴールデンジョッキーカップにＪＲＡから３騎手が参加

９月７日(水)、園田競馬場で行われる「第29回ゴールデンジョッキーカップ」に、ＪＲＡから戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)、福永祐一騎手(栗東・フリー)、岩田康誠騎手(栗東・フリー)の３名が参加することとなりました。同競走は、中央および地方競馬において通算2000勝以上をあげた騎手が招待されるものです。

●Ｔ.バシュロ騎手がＪＲＡ初勝利をあげる

８月28日(日)の２回札幌６日・第12レースとして行われた2022ワールドオールスタージョッキーズ第４戦ではアインゲーブングが１着となり､同馬に騎乗したテオ・バシュロ騎手(フランス)は､ＪＲＡ初勝利(４戦目)をあげました。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●サッポロクラシックＣは無敗のベルピット【各地の主要２歳重賞】

サッポロクラシックＣ(８月24日､門別､1700㍍)は、２番手を進んだブリーダーズゴールドジュニアＣの覇者ベルピット(牡､父パイロ)が残り50㍍で逃げ馬を捉え､単勝1.2倍の支持に応えてデビュー以来の連勝を４に伸ばしています。

●タニノタビト(愛知)が東海三冠を達成【各地の主要３歳重賞】

岐阜金賞(８月25日、笠松、1900㍍)は、５番手から差を詰めた２番人気のタニノタビト(牡、父オルフェーヴル)がゴール寸前で差し切り、史上５頭目(現行の駿蹄賞、東海ダービー、岐阜金賞が三冠となってからは２頭目)の東海地区三冠を達成しました。岩手のオークスに相当するひまわり賞(８月７日、盛岡、1800㍍、牝馬)は、ＪＲＡ(１勝)から浦和を経てこれが岩手転入初戦だった１番人気のトーセンキャロル(父ヴァンキッシュラン)が、中団からゴール前200㍍標識の手前で抜け出し、10馬身差で圧勝。加賀友禅賞(８月14日、金沢、1400㍍、牝馬)は、単勝1.1倍という圧倒的支持を集めたスーパーバンタム(父アポロソニック)が、２番手追走から３コーナー過ぎに先頭に立って後続に６馬身差を付け、重賞４連勝を果たしています。王冠賞(８月16日、門別、1800㍍)は、逃げた４番人気のエンリル(牡、父アジアエクスプレス)が、北海道三冠が懸かった単勝1.5倍で断然人気のシルトプレを８馬身引き離し、２歳時の兼六園ジュニアＣ以来の重賞勝ちとなりました。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１トラヴァーズＳ～エピセンターがＧ１初制覇

現地８月27日にアメリカ・ニューヨーク州のサラトガ競馬場で行われたＧ１トラヴァーズＳ(３歳、ダート2000㍍)は、Ｊ.ロザリオ騎手の手綱で内ラチ沿いを先行したエピセンター(牡３歳、父ノットディスタイム、Ｓ.アスムッセン厩舎)が直線入り口で先頭に立つと、最後は流しながら５馬身1/4差で完勝しました。Ｇ１アーカンソーダービーとＧ１ハスケルＳの勝ち馬サイバーナイフが逃げて２着。ケンタッキーダービー馬リッチストライクは４着。Ｇ１プリークネスＳを制したアーリーヴォーティングは最下位８着でした。エピセンターはＧ１ケンタッキーダービーとＧ１プリークネスＳはともに２着でしたが、続く前走７月のＧ２ジムダンディＳ(ダート1800㍍)を快勝。勢いに乗ってのＧ１初制覇となりました。

●Ｇ２ドーヴィル大賞～ステイフーリッシュは２着

フランスのドーヴィル競馬場で８月28日に行われたＧ２ドーヴィル大賞(３歳上、芝2500㍍)にＣ.デムーロ騎手とのコンビで参戦したステイフーリッシュ(牡７歳、栗東・矢作芳人厩舎)は、逃げて１馬身1/4差の２着でした。勝ったのは地元のボタニク(騸４歳、父ゴールデンホーン、Ａ.ファーブル厩舎)で、８月７日のＧ３ルー賞(芝2500㍍)に続く重賞連勝です。